

卷頭言



岩手県久慈からは三船久蔵一段という柔道の天才児を迎えて教育したというあたりから、本校の歴史が始まる。東北地方から本校の校風を慕って英才が集まつたということであろう。ちなみに三船先輩は第3回卒である。

第一回明治二十九（一八九六）年入学組は、未だ二中と呼ばれる前のことで、分校か何かの時代である。第一回組からは、安藤利吉陸軍大将と今村中将の名が見える。東北大學薬学の創始者八木精一教授・金研本多教授の片腕となつた遠藤彦七教授がおられる。

其後暫く、私の記憶に残つ

大将はこの年の入学であるから、この年から正真正銘の二中生ということになるのだろう。同大将に関する書籍は、阿川弘之氏のものを先頭にかなりの数に上る。失礼ながら猛将というわけにはゆかぬ知性派の、勇気ある行動で傑出しており、相手側の指揮官であつたハルゼー提督とは対照的であった。本校の卒業生に共通する特徴と言えるのではないかと考えている。

その点では学者に通ずるものが多いと考へるが、東北大学教授については、甚だ多数を占めているようである。

最初にこのような考察を行つ

ている方は見当たらぬのだが、仁科校長の考証によれば、この年から、仙台第二中学校ということになったとのことであるから、第一回の卒業生が出た時は、未だ独立していなかったのではないかとも知れない。何にしても井上成美

登山で有名になられたが関川明正（中44）の小学校百メートル競走記録は未だ破られていないのではないかと思われる。地味なところで多くの人達の努力が母校の成果を支えている。

平成十八年学士院賞受賞者に列せられた平朝彦（高17）は高柳洋吉（中44）に東北大学で指導を受けた後、東京大学海洋研に転じ成果を上げたのだが、その前年には和賀井敏矢（中42）の八十一歳受賞の快挙があった。学士院会員山川民夫（中39）の御尽力があつてのことと思うが、二年づづけて受賞などというのは

規模で、或いは世界で天分を開花させるようにするのが理想であり、少なくとも天分の育成を中心にして、健康がそのベースを充分に支えるようにしておくことが必要である。

場合によれば相反する体験を経ながら、生徒達は育つてゆく。先生をはじめとした教育関係者達は戸惑いながらも、必死に生徒達と触れ合つて來た。自主性を失い専らトップダウンに忠実に従おうとした方々も少なくなかつた。第一次世界大戦後の日本の対応にはかなり大きな失敗があつた。勿論、これは全く指導者達の失敗に帰せらるべきものであつたが盲従したことに対する責任なしとしない。時代おくれの軍国主義とこれに雷同した人々に責任があつた。

知的日本のポテンシャルを高めしめる以外に日本の発展はない。人間一人一人異なるたDNAを持ち、生活体験を経て本校に入学して来る。その生徒達を如何に指導し、体験させてゆくか、しか

おなしよりうにミテタルは恥恥
されて、変転いとまないのも
無意味である。しつかりと実
情に即した対応をとつて、将
来、世界を舞台に本校卒業生
が各々の天分を生かした大活
躍をしてくれることを心から
期待したい。

その暁には、本校教員が現
場で築き上げられた教育の手
法が、ボトムアップとなつて
世界に使われるようになる。
これこそ待望された新しい教
育の基礎の提唱であろうか。

その日が来るまで、愛情に
基いた努力とその結果の確認
を着実につづけて行くことが
不可欠であろう。

く対応してゆける能力を身につけることは、先輩としての生徒諸君に対し見守ってゆかなければならぬ最も大切な要項だと思う。

同憲公報

第 40 号

發行 宮城県仙台第二高等学校
同窓会事務局
仙台市青葉区川内濱橋通一
☎二二一一五六五一(直通)
創文印刷出版株式会社
仙台市青葉区春日町八番三四号
印刷

中学校では珍しいことと言わ
ねばならない。

当然、未だこれらのこと話で
あって、漸くその先端が顕わ
れたという程度であるが、今
後の発展は大いに期待出来る
と信じてゐる。

競争に終始し、より基本的な考え方には目が届いていない。基本だけにしか目を向けなかつた日本の過去は従来のものにだけ目を奪われて誤ったものに気がつかず、先を辿ることすら出来なくなっているのと



岩手支部

第十四回　春の東北
仙台二高（旧二中）・一高
（旧一中）合同懇親会
平成十九年九月八日（土）
午後六時、恒例となった仙台
二高（旧二中）、仙台一高
（一中）の標記の会が盛岡市
エスボアールにて開催された
ので報告致します。

今回もご来賓として二高校長、柏葉浩明先生、同窓会副会長笛気光祚先生、一高校長、北島博先生、同窓会事務局長、吉田和郎先生にご出席を頂きました。ご多忙の中押してご来臨の栄を賜ったことに対し両校の先輩諸子一同心よりの感謝と敬意を表するものです。会は両校の岩手県支部代表（二高、氏家和国氏、一高、八重樺雄一氏）からのご挨拶

質実剛健を旨としてきたが、今後もスタンスは同じで武道必修とし柔道、登山、諸ゲー「仙台に恋う」（仙台二高）と開催されているが、テーマはのことであった。その他一、二高定期戦の結果などを紹介された。

から最近の各校の情勢、生徒諸君の努力、特に仙台二高は今年から女子が入学したので各方面から感心の的でもある校内のお話も頂いたのでご紹^{ハシ}介をいたします。

柏葉校長からはまずこれまで二高あつての一高、一高あつての二高として競いあってきた。今後もお互い良きライバルとして頑張って行きたいと話され、次い

きりだとして、これまで一卵性双生児みたいに思つてきましたし、これからもこのような交流の場を続けてほしいと話され、ご持参の窓会誌「茶畑通信」にある対一高戦の結果、思い出などをご紹介された。笛気同窓会副会長、吉田事務局長からも色々面白いお話を頂いたが、紙面の都合上省略させて頂きます。

三一會（高8）

前お開きとなつた。もち論これも恒例の両校の校歌、応援歌にお互いの氣合いが入つたが、一高側の要請で今年は凱歌でなく「雨か嵐か」をご披露した。

この度、三一會を行しました。本誌は10年前の
らお寄せいただきになりました。内
になりました。内
《・母校、そして

・逝きし友へ、
過ぎし青春を思
なりともそのよす
で頒布中です。お

三一会（高8回卒業生親睦会）が記念誌を発行！

この度、三会では10年ぶりに記念誌「雨か嵐か—古希記念号」を発行しました。

本誌は10年前の還暦記念誌に続くもので、特に今回は西澤潤一会長からお寄せいただいた「特別寄稿」も掲載されており、一層充実したものになりました。内容は次のような構成になっています。

《・母校、そして・古希を迎えて・近ごろ・今を生きる・これから
・逝きし友へ・男子校よ再び・共学化反対の軌跡》

過ぎし青春を思い、「今」、そして「これから」を生きる諸兄の、多少なりともそのよすがにでもなれれば幸いです。1部3,000円（印刷実費）で頒布中です。お申し込みは下記宛にお願い致します。

記

〒980-0803 仙台市青葉区国分町2-7-7 奥山店舗開発(有)内
仙台二高三会事務局
(TEL 022-222-3330、FAX 022-222-7706)

福島支部

福島北陵会の前進である仙台二中・二高会の発足は定かではないが、昭和五十六年に故諏訪親一郎氏が初代会長として会が運営された。当時は十数名の会員しかおらず、ほとんどが医大の先生方で占められていた。

その後二代会長に故遠藤辰一郎福島県立医科大学第二外科部長が選ばれ、会員数も増え、一時は総会に三十数名が参加して盛大に行われたことであった。平成五年より三代目の会長として大原綜合病院の副院長であった柴拓先生が選ばれた。そもそも福島市は転勤族が多く、特に金融関係は一、二年で転勤するため、出来るだけ交流の場を設けようとした年二回（七月の総会、十二月の忘年会）の会合を開いていた。

平成十五年より四代目の会長として当時福島県立医大第二外科部長の阿部力哉氏が選ばれ現在に至っている。年二回の会合を重ねてきたが、個人情報保護に伴い、会員の消息が全く掴めず、出席者も著

しく減少したため、三年ほど前より、全体の集まりは、七月の総会のみとし、忘年会は有志の方々が夫婦同伴で集まることにした。現在、福島市、郡山市周辺に約六十名の会員がいる。

今年度の総会は七月十七日、同窓会理事鈴木邦夫氏のご出席を願って、割烹峰亀で行われた。出席者は僅か十名で何となく寂しい会合だった。鈴木氏より学校、同窓会の近況をお聞きし、九時ごろまで歎談をして解散した。今年の忘年会は十二月一・二日、郡山のホテルバーインで開催することになっており、現在出席者は二十三名（内同伴九組）となっている。

会報をご覧になった福島県在住の方は是非事務局の益田芳幸（高三卒）までご一報下さい。明年度の総会時にご案内を差し上げます。

連絡先

九六〇一〇一一

福島市丸子字沢目十七一二

電話

〇四一五五四一五九一〇

PTA・同窓会合同新年懇親会開催のお知らせ

平成20年の「PTA・同窓会合同新年懇親会」は、以下の日程で開催されます。多くの皆様のご出席をお待ちしております。

日時：平成20年1月11日(金) 18時20分より
 会場：ホテルメトロポリタン仙台4F「千代」
 仙台市青葉区中央1-1-1
 TEL 022-268-2525
 会費：5,000円

参加をご希望される方は、12月21日(金)までに、同封の申込用紙でのFAX送信かまたは電話で同窓会事務局までご連絡ください。

仙台二高同窓会事務局 北陵館内 (月・水・金 10:00~15:00)
 FAX 022-221-5686 TEL 022-221-5651

会報作成にご協力を

仙台二高同窓会報は、毎年一回発行しています。同窓生の諸兄の動向や現役生徒たちの活躍ぶりなどを紹介しております。

会員個人の寄稿はもちろんのこと、卒業回期ごとの集まりの様子などをもっともつと掲載できればと考えます。仙台を離れた方々の支部だよりを必ず書いていただき、卒業回期ごとの集まりの様子も、是非ご投稿下さい。くようにお願いします。また、卒業回期ごとの集まりの様子も、是非ご投稿下さい。

昨年度から少しすつ、編集の仕方を変えてきていましたが、まだまだ満足のできない。前にもお願いしましたが、現在は二名の理事と二名の教師(会員)が編集にあたっていますが、まだまだ満足のできないものにはなっておりません。

次号の原稿は、四月末を締め切りいたします。会報を盛り上げて下さい。

仙台二中・二高と私

高二回卒 千葉 喜彦

同窓会報第三十九号で、佐

藤健二氏（高二十六回）の話から二宮不二麿先生の作品が掲載されているホームページの存在を知つて早速開いてみた。作品の中には、先生が住んでおられた松島町錢神の風景があつて、なんとも懐かしい空気が感じられた。私は第二次大戦が終わつた年に、朝鮮の京城中学から仙台二中の二年に転校してきた。その後、学制改革によつて二中は二高となり、そのまま在学して一九五〇年春卒業、通算四年半通つたことになる。卒業の何年前からだつたか記憶は定かでないが、私たち一家は、母が勤務する松島町の手樽小学校の官舎に住むようになつていた。毎朝六時の一一番電車で仙石線の富山駅から学校に

通つた。官舎は、海に背を向けて十分ぐらいたところに向かつて二十分も歩いたところにあつたが、錢神は反対に海と奥様が住んでおられた。私はそのあたりも含めて海を眺めながらよく散歩した。先生の作品にあるような空気が今まで残つているかどうか。奥様がなくなつて、先生は再婚されたが、新しい奥様と母の交流は、私たちがその後多賀城に移つてからもずっと続いていた。

先生には授業で製図を教わった記憶がある。佐藤健二氏は美術の授業で先生にほめられた話をしているが、私もほめられたことがある。先生は褒め上手だったのでないか。私はどちらかというと体育系

だったが、じつは絵も好きでときどき家で描いたりしていた。卒業してだいぶたつてから、先生の絵画塾（たしか連坊のあたりにあつた）に通つたこともある。

佐藤健二氏は佐々木正芳氏のことでも述べておられるが佐々木氏は私と同級で、画家をめざしていることは当時から知つていて、ちょっと気になる存

在だった。卒業後しばらくは道でときどきそれ違つたりして、ちよつと気になる存

う。私たちも仙台駅にもどり家庭と合流し、汽車で父の郷里に近い松島駅（当時は利府の北、ひと山越えたところにあった）まで移動、そこで朝を待つた。それから十日もたつて二中に転入試験を受けに行つた。転入したクラスに、小野寺さんの息子がいた。

私は今でも時折仙台に行くが、そのときはできるだけ二高周辺をうろつくことにして三越の五階にいちはやくでき

た映画館で幾つも映画を見た

りもした。アボット、コステ

ロの喜劇、天然色（当時はこ

う呼んだ）のロシア映画「石

の花」等々いまだに記憶して

いる作品が幾つかある。あの

時間がお金はどうやって作つたのか覚えがない。つくづく

懐かしい時代である。

鮮から引き揚げてきてようやく仙台駅にたどりついた。駅

から見た仙台は空襲で一面焼け野が原、黒々としていた。

そのときは知らなかつたが、父と私は、そこをつききつて

仲の瀬橋を渡り、たもとにあ

るはずの母の実家を訪ねた。

そのときは知らなかつたが、

二中のすぐそばである。家は

跡形もなく焼け落ちていた。

父と私は、そこをつききつて

だつたが、じつは絵も好きでときどき家で描いたりしてい

た。卒業してだいぶたつてか

らだが、先生の絵画塾（たし

か連坊のあたりにあつた）に

通つたことがある。

佐藤健二氏は佐々木正芳氏

のことでも述べておられるが佐々

木氏は私と同級で、画家をめ

ざしていることは当時から知つ

ていて、ちよつと気になる存

在だった。卒業後しばらくは

道でときどきそれ違つたりし

ていたが、もう何十年と会つ

ていない。一番丁のコーヒーショップに彼の馬の絵などがあつたことなどは鮮明に覚えて

いる。私は十二年前に定年退職、そのまま勤務先があつた山口市に居つて、下手の横好きで絵を続けているおかげで知り合いが増え、佐々木氏の活躍の様子なども聞いて

いる。敷地の形、校庭と校舎の位置、校舎の形などがいず

れも本質的には昔のままで、

それが私をうろつきたい気持

ちにさせるのだ。一昨年、妻

とふたりで行ったとき、川内

の祖父母が住んでいたあたり

ある日の夜、私たち家族は朝

が終わつて二ヶ月ぐらいした

思ひ出話をもう少し。戦争

で老婦人が空襲当時のことを話してくれた。祖父母の家が

焼けたのは、隣接した陸軍兵

舍からの延焼によるものだつ

たらしい。

終戦直後の仙台二中には私

のようないわゆる方言がいきかつてい

た。私も含めて汽車通学者も少くなかった。陸軍幼年学

校からもどつてきただ者もいた。

政治活動に参加している者もいた。みんな飢えていた。冬

なのに裸足で下駄履きといいうのものいた。校舎は空襲から辛

いじて逃れたとはい、あち

こちが壊れていて窓にはガラスがなく、板や新聞紙が張ら

れていた。こんな状況なのに、サッカーや野球に興じたり、

焼け残つて骨格だけになつた

三越の五階にいちはやくでき

た映画館で幾つも映画を見た

りもした。アボット、コステ

ロの喜劇、天然色（当時はこ

う呼んだ）のロシア映画「石

の花」等々いまだに記憶して

いる作品が幾つかある。あの

時間がお金はどうやって作つたのか覚えがない。つくづく

懐かしい時代である。

熊野岳遭難 今年の慰靈は「五里霧中」

高六回卒 清野 英一

四回生の月田文和先輩と昨年から始めた慰靈登山第二年目、千葉英之氏により事故当時の校長渡辺宏氏による密かな巡礼登山が北杜会で紹介されてから、ご遺族、学校はじめ同窓生の間でその後、根強い関心を持たれています。同氏の話であり、校長先生も生徒への講話等で常にこのことに触れておられる。

やめ、刈田岳から現場方向を全員で遙拝して賽の磯の蔵王寺供養塔参拝にスイッチ・オン。

ぼうぼう漠々、五里霧中の霧のなか、感動と共に、蔵王遭難の一連のことに携わった人々のことが脳裏に浮かんだ。

みんな、背負ったのは「伝統」と言う「重み」だったのだ。

故人となられた人々が山忠校長、再建の塔のサイズを何度も私に問質す佐藤秀一先生

(1) 一高、二高校歌の作曲者は同じ人

九年に、二中にに入った昭和十九年に、二中の校歌を歌つているのを耳にして、私は子供心にもその洗練された感じの

ことになるので、その間の定期戦では、今度は「向こう側」のスタンダードから歌われてくる二高校歌を聞くことになつたのだが、同僚の多くの一高OBの人達から「二高的校歌もいつ聞いてもいい歌ですね」などと言われる度に嬉しく思つたものだった。

さて、本年、三十九号会報に「月田氏との慰靈登山」を記載戴いたのが起因で、登山に堪能な柏葉校長先生から参加の意を頂戴し、一連の「渡辺氏を巡る」セレモニーのスタッフ千葉氏、大友一郎君や渡辺氏ご一家三名が参加メンバーとして十月十六日九時三分合した。

同窓生の月田文和先輩と昨年から始めた慰靈登山第二年目、千葉英之氏により事故当時の校長渡辺宏氏による密かな巡礼登山が北杜会で紹介されてから、ご遺族、学校はじめ同窓生の間でその後、根強い関心を持たれています。同氏の話であり、校長先生も生徒への講話等で常にこのことに触れておられる。

さて、本年、三十九号会報に「月田氏との慰靈登山」を記載戴いたのが起因で、登山に堪能な柏葉校長先生から参考まで私に問質す佐藤秀一先生「セイ人、ほんとにまちがねえが、おめえ、そそつかしいがらな」「なんだべせんせ、まちがねえでは」これ師弟の会話。

そして、建立塔に揮毫する金子五郎先生、百周年関連行事に慰靈法要を加え実現に尽力された当時の同窓会副会長石井敏夫、高橋正道両氏、当時の会長堀田老は現地法要で弔辞を読み、行事費用にとご厚志を寄付された川崎の開業

医山家楨一先生に感謝状を渡された。行事の実行委員長を務めた大友一郎君は今でも慰靈碑制作に関わった月田石井の「ツキタさんのオズンツアン（月田文左衛門氏）と父一郎氏」や先輩諸氏、供養塔を担つた仲間たち。

材店の「ツキタさんのオズンツアン（月田文左衛門氏）と父一郎氏」や先輩諸氏、供養塔を担つた仲間たち。

みんな、背負ったのは「伝統」と言う「重み」だったのだ。

仙台一高と二高の名歌を尋ねて（その一・校歌）

高七回卒 小出 精

一方、一中（一高）の校歌にも、子供の時に濱グラウンドでのかの“三十二対二十七”的試合を観に行って以来、毎年の定期戦に通っている内に、「向こう側」のスタンダードで高らかに齊唱される「青葉の山の深緑……赤き真心捧げ持ち……」の歌詞と莊重な感じの曲にも獨得の存在感を感じ、いつしかすかり親しみを抱くようになつっていた。

私はその後、ご縁があつて、いつも十八年もの間、一高に教師として勤めることにな

り、二高通学の六倍も通つたことになるので、その間の定期戦では、今度は「向こう側」のスタンダードから歌われてくる二高校歌を聞くことになつたのだが、同僚の多くの一高OBの人達から「二高的校歌もいつ聞いてもいい歌ですね」などと言われる度に嬉しく思つたものだった。

一、二高校の個々の生徒の雰囲気、意識、好み等々には共通するものが多くあることを感じたが、しかし集団となると両校のカラーには違いがあることも確かである。私はカラーラーの違ひの端的な一例が校歌だと長年思っていた。私が校歌だと長年思っていた。感じるカラーを文字通り色で表現すると、一高の校歌にはその歌詞からすんなりと緑と赤とのツートンカラーを感じたが、二高の校歌には私はなぜかワインカラーを感じていた。ところがほんの一年前のある日、両校の同窓会名簿等

を繰いていた時に、何と両校の校歌の作曲者は同じ人であつたことに初めて気づいて驚き、まさに眼の鱗がとれる思いであつた。無論そのことをご存じの方はおられたと思うが、

「明治四十一年に作詞作曲成る」とあり、「一中校歌は（校史）」「明治四十二年制定」と記されている。

それぞれの歌詞については、生徒の中には音楽の授業中疲れて来たりすると口だけ開けて発声はしないなどの要領よき生徒も混じっていたとのことで、そのようないつの時代にもいる“悪童”対策の為には怖い一面を見せる必要があつたのかも知れないと察せられる。

男女共学制度は、果たして「時代の流れ」なのか？

高八回卒 山下 健二

仙台二高所蔵の資料も調べさせて頂いたことと合わせて知り得たことを紹介したいと思う。

作曲者は岩城寛先生

岩城寛先生は両校兼任の音楽教員として第一回目は明治四十一から大正三年迄、その後東北学院で約十六年間、昭和六年から再び一中（昭和十年まで）と二中（昭和十二年まで）とにそれぞれ勤められているが、その間明治末から昭和初期までの間には、仙商、仙台陸軍幼年学校、東華高女（二女高の前身）、そして宮城師範でも数年、数ヶ月ずつ勤務されている。

二中校歌は（同窓会誌に）

私は今年五月に、二中四十回生で二高教諭も勤められた二木道郎氏をお訪ねした所、二木氏は先生の両校歌作曲の業績もご存知で、しかも（昭和十九、十四年の）在学中に教わっていたところで、先生がピアノで（大学祝典序曲などの）ドイツの曲を弾かれたことなどを懐かしがっておられた。ニックネームは「ライオン」で髪の毛等の風貌がライオンの雰囲気をもっておられたとのこと。（その頃岩城

方は同校の国語教員である大関鶴磨先生が作詞されている。再び岩城先生の話に戻ろう。

ニックネームはライオン

私が今年五月に、二中四十回生で二高教諭も勤められた二木道郎氏をお訪ねした所、二木氏は先生の両校歌作曲の業績もご存知で、しかも（昭和十九、十四年の）在学中に教わっていたところで、先生がピアノで（大学祝典序曲などの）ドイツの曲を弾かれたことなどを懐かしがっておられた。ニックネームは「ライ

生は七十才前後であった。）生徒の中には音楽の授業中疲れて来たりすると口だけ開けて発声はしないなどの要領よき生徒も混じっていたとのことで、そのようないつの時代にもいる“悪童”対策の為には怖い一面を見せる必要があつたのかも知れないと察せられる。

榎本武揚から教員免許状

前述の二高所蔵の資料によると、先生は慶應二年に京都府宮津に生れ東京府第一中学を経て東京音楽学校に進み、卒業後教員になられたのだが、因みに取得された教員免許状の授与者は、かの榎本武揚（文相）であった。

そして愛知一中、台中師範、前橋中などに勤めたあと仙台一、二中に赴任されている。

一、二両校の名校歌を相次いで作曲された岩城ライオン

岩城先生に得も言われぬ敬意と親しみを感じそして感謝したいと思う。（次号では応援歌について記す。）

母校仙台二高は残念ながら、本年（平成十九年）四月から男女共学制に移行してしまつたが、この制度変更には大きな疑問を感じている。

第二次世界大戦の終結に伴い、連合国軍総司令部（GHQ）の指示により、日本全国の公立高校に対する男女共学制度が実施された。

そのような時代にあって、主に関東・東北地方においては、時の教育関係者の確固たる教育理念に基づいた並々ならぬ努力と工夫によって、戦後一貫して共学校と別学校との併存が貫かれてきた。

宮城県の別学高校を例にとれば、長年にわたるそれぞれの歴史を経て、それぞれの伝統・文化を形成してきた。そしてそれらの伝統・文化を基

に、各文野において、地域社に、別学高校は旧制の中特に、別学高校は旧制の中

会に対してものみならず、日本全国さらには世界レベルにおいて、大きな貢献をなし、今まで通り通っている。男女共学制は「時代の流れだ」などという過った風潮が世間ではまかり通っている。男女共学制度は、私立学校の学校経営事情による理由は別にして、実は時代の流れでも何でもないのである。その理由は以下の通りである。

一、別学高校の存在意義が既に定着していること。

戦後の教育諸改革が行われておおよそ六十年、それがそのまま男女共学制度の歴史であるが、この間、別学校として残った高校も、そしてまた共学校もそれぞれの特長をして残った。

特に、別学高校は旧制の中

同窓会

学校、高等女学校時代から引き継いだよき伝統と文化を生きかし、前述のような貢献や存在意義を十分に發揮してきたことは、世間も等しく認めているところである。

過去十回以上にわたって行われた「(仮称)仙台二高共学化調整会議」においても、宮城県教育委員会は、「別学

高校に特段の問題点があるわけではない。むしろ立派な実績を上げてきたことは認める」旨、再三にわたって明言している。

つまり、男女共学導入後六十年の長い歴史を経た今日においても、別学高校の存在意義は全く変わっていないという官民あげての共通認識が長期間にわたり、既に定着しているのである。

2007年度 同窓会費納入状況

平成19年10月末日現在

| 会報発送数 | 口数 | 入金額 | 会報発送数 | 口数 | 入金額 | 会報発送数 | 口数 | 入金額 | | | |
|-------|-----|-----|---------|------|-----|-------|---------|------|-----|-----|---------|
| 中21回 | 19 | 1 | 3,000 | 高6回 | 233 | 184 | 557,000 | 高33回 | 156 | 45 | 135,000 |
| 中27回 | 12 | 4 | 12,000 | 高7回 | 190 | 132 | 402,000 | 高34回 | 140 | 24 | 72,000 |
| 中28回 | 14 | 3 | 9,000 | 高8回 | 228 | 157 | 474,000 | 高35回 | 148 | 35 | 105,000 |
| 中29回 | 22 | 1 | 3,000 | 高9回 | 237 | 159 | 477,000 | 高36回 | 158 | 44 | 132,000 |
| 中30回 | 17 | 9 | 27,000 | 高10回 | 280 | 197 | 591,000 | 高37回 | 156 | 32 | 96,000 |
| 中31回 | 18 | 2 | 6,000 | 高11回 | 247 | 193 | 585,000 | 高38回 | 161 | 21 | 63,000 |
| 中32回 | 17 | 7 | 21,000 | 高12回 | 257 | 154 | 465,000 | 高39回 | 174 | 21 | 63,000 |
| 中33回 | 22 | 7 | 21,000 | 高13回 | 230 | 109 | 327,000 | 高40回 | 178 | 47 | 141,000 |
| 中34回 | 27 | 15 | 45,000 | 高14回 | 263 | 167 | 504,000 | 高41回 | 190 | 31 | 93,000 |
| 中35回 | 36 | 26 | 81,000 | 高15回 | 250 | 134 | 405,000 | 高42回 | 210 | 24 | 72,000 |
| 中36回 | 39 | 19 | 57,000 | 高16回 | 234 | 126 | 378,000 | 高43回 | 215 | 39 | 117,000 |
| 中37回 | 48 | 29 | 90,000 | 高17回 | 242 | 136 | 408,000 | 高44回 | 209 | 27 | 81,000 |
| 中38回 | 42 | 22 | 66,000 | 高18回 | 209 | 110 | 333,000 | 高45回 | 239 | 42 | 129,000 |
| 中39回 | 63 | 43 | 129,000 | 高19回 | 294 | 121 | 363,000 | 高46回 | 242 | 36 | 108,000 |
| 中40回 | 65 | 51 | 153,000 | 高20回 | 182 | 64 | 192,000 | 高47回 | 253 | 32 | 99,000 |
| 中41回 | 78 | 59 | 177,000 | 高21回 | 257 | 111 | 333,000 | 高48回 | 246 | 34 | 102,000 |
| 中42回 | 80 | 75 | 225,000 | 高22回 | 282 | 122 | 366,000 | 高49回 | 264 | 47 | 141,000 |
| 中43回 | 93 | 62 | 186,000 | 高23回 | 201 | 76 | 228,000 | 高50回 | 255 | 35 | 105,000 |
| 中44回 | 110 | 82 | 246,000 | 高24回 | 203 | 68 | 204,000 | 高51回 | 254 | 35 | 105,000 |
| 中45回 | 122 | 99 | 300,000 | 高25回 | 198 | 83 | 252,000 | 高52回 | 259 | 48 | 147,000 |
| 中46回 | 125 | 87 | 261,000 | 高26回 | 226 | 88 | 264,000 | 高53回 | 282 | 51 | 153,000 |
| 中47回 | 139 | 110 | 330,000 | 高27回 | 209 | 76 | 228,000 | 高54回 | 276 | 60 | 180,000 |
| 高1回 | 153 | 80 | 240,000 | 高28回 | 207 | 89 | 267,000 | 高55回 | 286 | 85 | 255,000 |
| 高2回 | 177 | 109 | 330,000 | 高29回 | 200 | 46 | 141,000 | 高56回 | 280 | 92 | 282,000 |
| 高3回 | 206 | 178 | 534,000 | 高30回 | 191 | 54 | 162,000 | 高57回 | 296 | 111 | 333,000 |
| 高4回 | 210 | 183 | 552,000 | 高31回 | 187 | 56 | 168,000 | 高58回 | 306 | 175 | 528,000 |
| 高5回 | 207 | 151 | 456,000 | 高32回 | 169 | 43 | 132,000 | 高59回 | 321 | 73 | 219,000 |
| 合計 | | | | | | | | | | | |
| 1口 | | | | | | | | | | | |

合計 14,421 5,915 17,822,000

1口 ¥3,000-

同窓会総合報告

去る六月三十日(土)に、

意見を聞き精査することになった。

心援歌齊唱 福引

その他の協議があつた。

連絡報告

連絡報告 同窓会総会および懇親会に

平成十九年度 予算案 ・校内助成金について

芳賀 孝和（高十八回）

・会報の発送先、校内助成金の支出先、予算削減の根拠、特別会計からの繰り入れの適否、決算書のあり方等質疑

個人名を冠することを要請したむね報告があつた。また二高同窓会ホームページページの立ち上げの準備に入ることが報告された。

(5) 委員長は互選とし、議長となる。

(6) 委員会は「理事候補者」を選出し評議員会に答申する。

(7) 委員会の事務局は理事会が行う。

(8) 今回の決定は今後問題があれば見直すことができることとなつた。

理事会は年内に第一回目の選考委員会を開催することを検討することとなつた。

第二号議案

- ・ IT委員会について
- ・ 名称を「電子広報委員会」とし、名簿に関する事項を除き、ホームページに関わる同窓総会広報活動を行う。内容として理事会、評議員会、総会、同窓会行事や全国の同窓生の投稿を扱い、作業は外注することが承認された。
- ・ 議長は今年度は十回（十二号議案）

選出し、その後は一回生は十一回（十四回生から選出し、任期は一年とし再任は認めない。また次年度は十二回（十四回生から選出し、その後は一回生

ずつ繰り下げる。

・ 評議員会への議案提出な

どの申し合わせ事項等については今後更に検討す

る。

報告

評議員ならびに常任委員会の確認を引き続き行い名簿を完全なものにする旨理事より報告があった。

閉会（十七時四十分）

評議員会等記録

五月二十六日（土）評議員会開催（前年度事業報告・決算、新年度事業計画・予算等）

八月二十四日（金）講演会「教育基本法の改正と今後の課題」（鈴木　勲氏）

八月九日（木）理事会開催②（評議員会の開催について協議）

九月六日（木）理事会開催③（評議員会の開催に向けて協議）

九月十七日（月）評議員会開催（理事選考委員会、IT委員会等協議）

九月二十一日（金）理事会開催④（理事選考委員会、電子広報委員会等）

六月七日（木）新聞広告で金賞受賞（授与式に鈴木理事、佐藤理事出席）

十月七日（日）第一回電子広報委員会開催

十月十二日（金）理事会開催⑤（理事選考委員会、電子広報委員会、同窓会報等協議）

協議)

六月三十日（土）同窓会定期総会開催（江陽グランドホ

（鈴木理事出席）（総会での問題点、指摘事項の確認、対応について協議）

七月一日（月）理事会開催①（鈴木理事出席）（総会での問題点、指摘事項の確認、対応について協議）

七月十七日（火）福島北陵会（鈴木理事出席）

議)

十月十九日（金）塙釜北陵会（鈴木理事出席）

（十一月十六日（金）理事会開催⑥（理事選考委員会、電子広報委員会等協議）

十一月七日（水）東海北陵会

（笛氣副会長出席）

十一月十六日（金）理事会開催⑦（理事選考委員会、電

子広報委員会等協議）

現役生徒の活躍

ヨット部
中嶋輝

四六時中ヨットのことで頭が一杯になっていた。

高総体では目標の三位に入賞し、東北大会出場を決めたが、東北大会は苦手な強風に煽られヒールを起こすことになりをすることができずインターハイ出場を果たせなかつた。悔しい気持ちとこれで終わったという寂しい気持ちが押し寄せ、何に対してもやる気を失つた。どうしてもこれまでヨットを終わらせたくな

く、最後のチャレンジ国体予選に賭けてみることにした。しかし、出場するには全く経験のないシーホッパーSRに乗らなければならず、パートナーなしの個人競技ということが不安だったが幸い天候に恵まれ、夢だった国体出場権を勝ち取ることができた。国体では、監督、コーチ、顧問の先生、OBの先輩方など様々な

まさか私が国体に出るとは周囲の誰もが思つたであろう。両親ですら国体出場が決まったと告げた時、「え? は? 今なんか言つた?」と聞き返したほどである。思えば二年前、勉学に意欲を燃やしていた私は、息抜きとしてヨットを始めた。いざ始めてみると外観の優雅さに反し、現実は頭脳と体力を使う激しいスポーツで、時には恐怖を感じることすらあつた。風の猛威で挫折しそうになつたこともあつたが、一緒に乗船する良きパートナーの支えもあり勝負に集中できるようになり、気付いた時には勉学とヨットの位置付けが逆転し、

方の応援・御協力により二十

それが、今大会で最大の熱戦であったことは言うまでもない。予戦最終戦、勝ったチームが本戦へと進むその試合、彼等の手数は二百を越えていた。駒の弾ける音と残り時間を見告げる電子音、凄まじい攻

最大の熱戦

小野寺 聰 将棋部



九位という成績ではあったが、最後のセーリングを楽しむことができた。もっとヨットの知識や技術を極め、今後的人生でも継続していくたいと思つた。また、本校でヨットに出会ったことは夢の出会いであり、人生の宝となつた。

今まで自分を支えてくださつた顧問の先生やOBの先輩方へ心から感謝致します。



防、この時将棋は本当に
いとなつていた。

敗れた。一等蟬が高く鳴く日
であった。

学オリンピック代表候補権が与えられるのだ。
私は二次選考に進むことを目標にしていたが、一次選考で落ちてしまった。代表候補に選ばれたという通知が届いた。

いやはや緊張はおろか、何ともラックスしており、何だ緊張しているのは私だけではないかと思ひもしたが、何にせよおかげで変に緊張する事もなく試合に臨めたのである。試合は多少の迂曲はあつたものの順順と勝ち進み、そして冒頭の試合へと繋がるのである。結局予戦最終戦、大熱戦となつたその試合にて私は達

敗れた。一等蟬が高く鳴く日
であった。
私達三年生はこれをもつて
引退である。後輩諸君にはま
ず将棋の楽しさを存分味わわ
てもらいたい。そして願わくば、
全国のその形容しがたい
凄さを経験して欲しい。最後
に、この大会のみならず、三
年間私達を支え、応援して下
さった顧問の先生方やOBの方々を始めとする皆さんに心
から御礼を申し上げます。

化学グランプリ

小学部

七月、私は国際化学オリンピックのことなどゆ考えず、国内最大の大会であると同時に、化学グランプリの一次選考に臨んだ。化学グランプリは化学の甲子園と呼ばれ、化学の

七月、私は国際化学オリンピックのことなどつゆ考えず、國內最大の大会であると同時に、国際大会予選の性質ももつ。筆記による一次選考、そして実験による二次選考で大賞が決まるほか、一、二年生の一次選考優秀者には国際化学オリンピック代表候補権が与えられるのだ。

普段会えない人たちと会えることや、部活で行っている研究の情報交換ができたことは良い刺激になったと思う。

三月の最終選考で国際化学オリンピック代表四名が私を含む二十二名の候補生の中から決定される。それまでの間は学習参考図書として贈られた書籍を中心に自学を進めるところになるという。部活の研究や生徒会会长としての責任もあるが、オリンピック出場

だが、大会に出場できたことによって、いろいろな経験をすることができた。これらはこの先きっと役に立つ、多くの後悔の中、これだけは確信できた。

た時は来年に向けてがんばるうと思っていた矢先で、あまりに意外のできごとに喜びよりも驚きの方が大きかったようだ。東京の認定式に参加したが、周りは有名進学校やスーパー・サイエンス・スクールの認定校の生徒、二次選考に進んだ生徒や賞をとった生徒と一緒に目すら感じるほどの錚々たる面々であった。全く場違いではないかとも思ったが、

大会の三日間は、四六時中閉幕のことと考えていた。最後の悪足搔きとばかりに、少しでも強くなつて試合に臨もうと考えていた。緊張のためか、数多くの失敗を犯し、結果は書くに及ばず悪かった。島根の集まつた猛者達の中、自分がまだまだ弱いことを知

全国大会出場!!

囲碁部



を目指して頑張つていきたい
二考：二二いふ。

と若者でいる

部活動の成果 運動部成績

| 大会名 部名 | 平成18年度 新人大会 | 平成19年度 | |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 定期戦 | 総合体育大会 |
| 硬式野球部 | 仙塩リーグ戦 仙台二 6 - 2 仙台東 仙台二 5 - 7 仙台三 仙台二 8 - 1 仙台商 | 負け 仙台二 仙台一 5 - 15 | トーナメント 1回戦 仙台二 4 - 9 学院 敗者復活トーナメント 仙台二 6 - 4 榴ヶ岡 2回戦 仙台二 0 - 3 学院 3回戦 甲子園予選 仙台二 2 - 5 黒川 2回戦 |
| 軟式野球部 | 1回戦 仙台二 4 - 1 仙台 2回戦 仙台二 2 - 5 仙台工 | 負け 仙台二 仙台一 3 - 4 | 1回戦 仙台二 0 - 2 仙台商 |
| 陸上競技部 | 400M 8位 崔裕貴 | | 4×100mR 4位 (福田・吉田・崔・加藤) 三段跳 6位 (渡辺康太) |
| 水泳部 | <競泳> 県新人大会 総合4位 400mR (吉村・横田・足立、早坂) 第3位 100m自由形 早坂一希 第2位 以上東北大会出場 800mR (早坂、横田、森、足立) 第3位 <水球> 県新人大会 仙台二 1 - 5 柴田 第2位 東北選手権大会 6位 県室内選手権 2位 東北室内選手権 4位 | | <競泳>県総体 100m自由形 早坂一希 第3位 400mR (早坂、原田、横田、足立) 第2位 1500m自由形 佐々木拓輝 第5位 200m自由形 足立一樹 第6位 200m自由形 原田健登 第4位 400mMR (吉村、早坂、足立、原田) 第6位 400m自由形 原田健登 第3位 100mバタフライ 原田健登 第8位 50m自由形 足立一樹 第8位 早坂一希 第4位 東北大会 400mR (早坂、原田、横田、足立) 3:44.11 第4位 100m自由形 早坂一希 55.18 決勝進出 400m自由形 原田健登 4:21.32 決勝進出 50m自由形 早坂一希 25.54 第4位 800mR (早坂、原田、横田、足立) 8:16.06 決勝進出 <水球> 県総体 仙台二 3 - 11 柴田 第2位 東北総体 仙台二 5 - 9 柴田 仙台二 18 - 9 青森山田 総合5位 |
| サッカー部 | 仙台地区予選 仙台二 1 - 1 仙台商 仙台二 7 - 0 松島 県大会 1回戦 仙台二 10 - 0 直理 2回戦 仙台二 6 - 0 佐沼 準々決勝 仙台二 1 - 3 学院榴ヶ岡 | | 仙台地区予選 仙台二 2 - 2 東北学院 仙台二 2 - 1 仙台一 仙台二 5 - 0 仙台 県大会 1回戦 仙台二 1 - 2 名取北 |
| ラグビー部 | 予選リーグ敗退 仙台二 12 - 19 仙台 仙台二 12 - 15 合同 (気仙沼・東陵) 仙台二 0 - 24 仙台一 | | 昨年度は久しぶりに勝利しました。今年度は仙台一高にて元日開催予定です。ぜひおいで下さい。 |
| ハンドボール部 | 1回戦 仙台二 18 仙台一 (7 - 9) (10 - 8) (2 - 0) (2 - 1) 2回戦 仙台二 18 (9 - 9) 20 古川工 (第4シード) | 勝ち 仙台二 仙台一 25 (12 - 7) 13 | 1回戦 仙台二 29 (17 - 5) 10 宮高専 2回戦 仙台二 5 (5 - 14) 26 仙台 |
| バスケットボール部 | 仙塩地区予選会 仙台二 121 - 79 富谷 " 86 - 58 仙台三 " 64 - 38 仙台一 " 62 - 85 聖和学園 " 58 - 95 明成 " 61 - 86 東北学院 県大会 1回戦 仙台二 96 - 61 逆桜 2回戦 " 98 - 62 石巻西 3回戦 " 62 - 83 東北学院 3回戦敗退 ベスト16 | 勝ち 70 - 69 通算成績 31勝26敗 | 仙塩地区予選会 仙台二 125 - 33 松島 " 142 - 37 電波高専 県大会 2回戦 仙台二 142 - 76 多賀城 3回戦 " 114 - 72 仙台一 準々決勝 " 66 - 68 東北学院 ベスト8 |
| バレーボール部 | 1回戦 田尻 2 - 0 2回戦 古川 1 - 2 | 負け 2 - 3 通算成績28勝29敗 | 1回戦 鶴沢工 2 - 0 2回戦 東北工大 0 - 2 |
| テニス部 | 団体戦 ベスト8 2回戦 仙台二 5 - 0 利府 3回戦 仙台二 3 - 0 東北工大 4回戦 仙台二 2 - 3 名取北 個人戦 シングルス 庭野陽樹 ベスト16 ダブルス 庭野・佐藤 ベスト8 中村・藤澤 ベスト16 | | 団体戦 2回戦 仙台二 2 - 0 黒川 3回戦 仙台二 0 - 2 仙台三 個人戦 シングルス 藤澤生磨 ベスト16 ダブルス 佐藤・庭野 ベスト16 |

| 部名 | 大会名 | | |
|---------|-----------------------------------|-----------|------------------------------------------|
| | 平成18年度 | | 平成19年度 |
| | 新人大会 | | 定期戦 |
| ソフトテニス部 | 団体戦 | | 団体戦 |
| | 1回戦 仙台二 - 岩出山 (棄権) | | 1回戦 仙台二② - 1 石巻商 |
| | 2回戦 仙台二② - 0 仙台東 | | 2回戦 仙台二② - 0 宮城水産 |
| | 3回戦 仙台二 1 - ②富谷 | | 3回戦 仙台二 0 - ②東北学院 |
| | 個人戦 | | 個人戦 |
| | 1回戦 永澤・佐藤(秀) ④ - 0 佐沼 | | 1回戦 土家・及川 2 - ④大河原商 |
| | 大津・佐藤(雄) ④ - 3 名取 | | 鈴木・太田 2 - ④仙台 |
| | 永岡・原田 0 - ④築館 | | 井上・小原 2 - ④東北学院 |
| | 木村・鈴木 ④ - 0 | | 山村・佐藤(雄) ④ - 1 宮城広瀬 |
| | 2回戦 永澤・佐藤(秀) 1 - ④白石工 | | 大津・植松 ④ - 2 仙台商 |
| | 大津・佐藤(雄) 0 - ④仙台一 | | 斎藤・原田 ④ - 1 古川学園 |
| | 木村・鈴木 0 - ④仙台工 | | 石岡・佐藤(秀) ④ - 3 白石工 |
| | 土家・及川 ④ - 0 東北 | | 山村・佐藤(雄) 1 - ④本吉響 |
| | 3回戦 土家・及川 ④ - 1 塩釜 | | 大津・植松 1 - ④利府 |
| | 4回戦 土家・及川 1 - ④東北 | | 石岡・佐藤(秀) 1 - ④東北 |
| 卓球部 | 団体戦 | | 団体戦 |
| | 1回戦 仙台二 3 - 1 東北 | | 1回戦 仙台二 3 - 0 角田 |
| | 2回戦 仙台二 0 - 3 育英 | | 2回戦 仙台二 1 - 3 東北学院 |
| | シングルス | | ダブルス 1回戦 大宮司・北村 |
| | 2回戦 好井 | | シングルス 1回戦 西戸 |
| バドミントン部 | 3回戦 北村・佐藤 | | 2回戦 佐藤・佐野・丹野 |
| | 4回戦 丹野 | | 3回戦 大宮司 |
| | 団体戦 | | 団体戦 |
| 弓道部 | 1回戦 仙台二 0 - 3 気仙沼 | | 1回戦 仙台二 3 - 0 東北工大 |
| | 県大会 | | 2回戦 仙台二 0 - 3 塩釜 |
| | Aチーム (壹岐・佐藤(智)・倉井・加藤・佐藤(壮)) | | 仙塙大会 Aチーム (佐藤(智)・倉井・高橋(学)・後藤・佐藤(壮)) |
| | 予選 10中で通過 | | 予選 9中で通過 |
| | 決勝トーナメント | | 決勝トーナメント |
| | 1回戦 対仙台三B 8-8、2-1 同中競射で勝利 | | 1回戦 対利府A 12-8で勝利 |
| | 準々決勝 対仙台B 10-8で勝利 | | 準々決勝 対仙台B 13-7で勝利 |
| | 準決勝 対仙台一A 10-10、4-1 同中競射で勝利 | | 準決勝 対館山A 13-12で勝利 |
| | 決勝 対利府A 12-14で敗退 | | 決勝 対学院A 11-16で敗退 |
| | Bチーム (後藤・安孫子・相澤・四家・高橋(学)) | | Bチーム (壹岐・袖澤・安孫子・四家・加藤) |
| 柔道部 | 予選 5中で敗退 | | 予選 4中で敗退 |
| | 県大会 | | Cチーム (松永・庄司・宮倉・相澤・高橋(秀)) |
| | Aチーム (壹岐・佐藤(智)・倉井・加藤・佐藤(壮)・宮倉・松永) | | 予選 6中で敗退 |
| | 予選 40射22中で通過 | | 県大会 Aチーム (佐藤(智)・倉井・高橋(学)・後藤・佐藤(壮)・松永・庄司) |
| | 準々決勝 20射8中で敗退 | | 予選 40射28中 |
| | Bチーム (四家・安孫子・相澤・後藤・高橋(学)・庄司・安藤) | | 準々決勝 20射15中 |
| | 予選 40射14中で敗退 | | 準決勝 20射11中 |
| | 個人 倉井 翔平 準決勝進出 12射8中 | | 計 80射54中 同中競射4中で決勝リーグ進出 |
| | 5/14(月)ともに 3チームで対戦 | | 決勝リーグ 対仙台A 13-15で敗退 |
| | 計9試合を行い、 4勝3敗2引き分けで勝利 | | 対学院A 10-13で敗退 |
| 剣道部 | 団体戦 | | 対石巻西A 12-15で敗退 |
| | 個人戦 60kg級 庄子 | 予選敗退 | 県3位射道優秀 |
| | 73kg級 亀山 | 予選敗退 | Bチーム (袖澤・壹岐・安孫子・四家・加藤・宮倉・相澤) |
| | 90kg級 三浦 | 予選敗退 ベスト8 | 予選 40射15中で敗退 |
| | 1月 1人残して勝利 | | 個人 佐藤壮一郎 20射16中で5位 東北大会へ |
| 柔道部 | 5月 2人残して勝利 | | 倉井 翔平 準決勝進出 射道優秀(16射13中) |
| | 団体予選リーグ | | 高橋 学 準々決勝進出(12射8中) |
| | 仙台二 3 - 1 柴田 | | 東北大会(秋田) 佐藤壮一郎 8射5中で予選敗退 |
| | 仙台二 4 - 0 明成 | | 団体戦 |
| | 決勝トーナメント | | 予選リーグ ブロック2位 通過 |
| | 1回戦 シード | | 決勝トーナメント 1回戦 白石 敗退 |
| | 2回戦 仙台二 2 - 2 岩ヶ崎 (本数勝ち) | | 個人戦 60kg級 庄子 予選敗退 |
| | 準々決勝 仙台二 0 - 4 東陵 ベスト8 | | 90kg級 阿部 予選敗退 |
| | 個人戦 | | 三浦 決勝トーナメント 1回戦敗退 |
| | 2回戦 藤原(仙台二) ○-×齋藤(明成) | | 男子団体予選リーグ |
| 剣道部 | 3回戦 藤原(仙台二) ○-×村上(多賀城) | | 仙台二△1-1△石巻 |
| | 4回戦 藤原(仙台二) ×-○桑折(仙台) | | 仙台二4-0 東北工大 |
| | 2回戦 手嶋(仙台二) ○-×赤岩(河南) | | 決勝トーナメント |
| | 3回戦 手嶋(仙台二) ○-×森(宮農) | | 1回戦 シード |
| | 4回戦 手嶋(仙台二) ○-×丹野(広瀬) | | 2回戦 仙台二 3 - 1 角田 |
| | 5回戦 手嶋(仙台二) ×-○神指(育英) | | 準々決勝 |
| | 男子個人戦 | | 仙台二×1-4 ○東陵 |
| | 2回戦 手嶋(仙台二) ×-○渡辺(角田) | | 男子個人戦 |
| | 3回戦 佐藤(仙台二) ○-×阿部(志津川) | | 2回戦 手嶋(仙台二) ×-○神指(育英) |
| | 4回戦 佐藤(仙台二) ○-×門間(角田) | | 女子個人戦 |
| 柔道部 | 5回戦 佐藤(仙台二) ○-×水谷(仙台西) | | 1回戦 松田(仙台二) ○-×安達(泉館山) |
| | 男子個人戦 | | 下瀬川(仙台二) ○-×菅野(塩女) |
| | 2回戦 佐藤(仙台二) ○-×早坂(宮三工) | | 2回戦 松田(仙台二) ○-×山田(県工) |
| | 3回戦 佐藤(仙台二) ○-×庄司(育英) | | 3回戦 松田(仙台二) ×-○庄司(育英) |
| | 女子個人戦 | | 下瀬川(仙台二) ×-○村上(東陵) |
| | 1回戦 松田(仙台二) ○-×安達(泉館山) | | |
| | 2回戦 松田(仙台二) ○-×菅野(塩女) | | |

| 部名 | 平成18年度 | | | 平成19年度 | | |
|---------|----------------------------------------------------|--|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| | 新入大会 | | 定期戦 | 総合体育大会 | | |
| フェンシング部 | 団体戦 仙台二 2 - 5 育英 | | | 団体戦 仙台二 3 - 5 育英 | | |
| 山岳部 | 4位 (79.1点) | | | 4位 (85.3点) | | |
| スキーパー部 | ジャイアントスラローム 16位 橋本 隆志 スラローム 14位 橋本 隆志 | | | | | |
| ヨット部 | 1558艇 4位 中嶋 輝・渡部 岳組 1125艇 7位 井上 肇一・伊藤 雄平組 | | | 県大会 ソロ 1558艇 中嶋 輝・渡部 岳組 3位 1125艇 井上 肇一・佐々木 駿組 7位 デュエット 2位 東北大会 ソロ 1558艇 中嶋 輝・渡部 岳組 17位 1125艇 井上 肇一・佐々木 駿組 22位 国体予選 シーホッパー S R スモールリグ 12969艇 優勝 中嶋 輝 国体 12969艇 29位 中嶋 輝 | | |

部活動の成果

学芸部成績 (平成19年11月まで)

| 部名 | 成績 | 部名 | 成績 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 写真部 | 第6回宮城県高等学校夏季写真コンテスト (7.15 於 塩釜高等学校) 優良賞「光の踊り子」 2年2組 加藤慶一郎 " " 「夕景の回廊」 2年7組 鈴木 大助 " " 「すべては一人のために」 1年6組 林 直人 審査員特別賞「Bottled Town」 2年7組 八木沼瑞紀 全日本写真展2007 高校生の部 銅賞「窓辺のイスがお気に入り」 1年6組 瀬川 哲朗 第14回宮城県高等学校写真展 金賞 2年7組 八木沼瑞紀 銀賞 2年7組 鈴木 大助 銀賞 2年2組 加藤慶一郎 | 吹奏楽部 | 第40回アンサンブルコンテスト仙台青葉支部予選 サキソフォン四重奏 金賞 (代表) フルート三重奏 金賞 打楽器三重奏 金賞 クラリネット三重奏 銀賞 ユーフォニアム・デューバ四重奏 銀賞 第29回東北吹奏楽の日演奏会 (仙台高校・明成高校と合同演奏) JBA東北支部主催管打楽器ソロコンテスト南東北大会 ソプラノサキソフォン 成澤 克麻 (3-7) 金賞 クラリネット 小鹿 裕希 (3-7) 銅賞 クラリネット 吉泉玲於奈 (3-5) 銅賞 第40回アンサンブルコンテスト宮城県大会 サキソフォン四重奏 金賞 (成澤 克麻・辻 明哲・原 墓・庄子 翼) 第20回定期演奏会開催 (6/30 宮城県民会館) 全日本吹奏楽コンクール第50回宮城県大会 仙台青葉・泉地区予選 大編成の部 銀賞 |
| 物理部 | 第60回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「系が熱平衡に至る過程について 一冷めやすいとはどういうことか」 鈴木 裕太、高橋 優、佐藤 和貴、佐藤 悠介、 菅原健太郎、早坂 裕介、福壽 一暁 | 合唱部 | 北陵祭にて発表 |
| 化学部 | 全国高校化学グランプリ参加 6名 内 国際化学オリンピック日本代表候補 (22名) に選出 日置壮一郎 第60回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「BZ反応の反応機構の調査および反応周期の制御」 藤原 悟志、山崎 高寛、下山 浩 優秀賞「コバルト (Ⅲ) アンミン錯体の合成法に関する 研究」 日置壮一郎、高橋 拓嗣、北山 裕貴 | 囲碁部 | 第31回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会宮城県大会 (6/22~24) 団体 準優勝 (鹿野裕太郎、鈴木渙太郎、庄子 侑里) 個人 A組 (大山 佳太)、D組 (小野寺 聰) 優勝 第31回全国高文祭囲碁部門個人戦代表出場 (鹿野裕太郎) (8/1~2) 第8回宮城県高校囲碁九路盤大会 (10/19) 1位 大山 佳太 4位 酒井 駿多 6位 加藤 淳史 7位 庄子 侑里 第21回東北地区高等学校囲碁選手権大会出場 (加藤 淳史) (11/9~10) |
| 生物部 | 第60回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「水辺の植物の水質浄化～川や湖の自然浄化作用 をアクリルウムに」 2年8組 小野寺孝興 1年5組 金野 東麻 1年5組 永谷 春香 | 将棋部 | 第43回全国高等学校将棋選手権宮城県予選大会 団体戦 優勝 佐々木祐一郎・小野寺 聰・成田 憲俊 第43回全国高等学校将棋選手権大会 (出雲市) 団体戦 11位 (出場校45校) 第20回全国高等学校将棋竜王戦宮城県予選会 A組 準優勝 成田 憲俊 第24回宮城県高等学校将棋新人戦 A組 準優勝 成田 憲俊 (東北大会・全国大会へ出場予定) |
| 地学部 | 第60回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「我が校のエアドームと今年の改良点 ～プラネタリウム用エアドームの開発」 1年5組 鹿澤 優祐 1年5組 鮎本 圭吾 1年6組 伊藤 公大 1年5組 黒田 隆徳 3年6組 池田 翔 3年6組 高井 拓実 | ギター部 | ストライヒジェネ祭り LIVE甲子園予選会出場 (5. 20) 坂田 敬・半田 慎・盛内 駿介・豊田 泰淳・今野 雄大 第13回高校対抗バンド合戦県大会出場 (7. 21) 關本 崇文・佐藤嘉久昌・北谷 大貴・渡辺 数基・今野 雄大 第4回高校対抗バンド合戦～新人大会～出場 (11. 10) 合同ライブ開催 (一女高・二女高) 奨励賞 SANDWICH MAN 1-2 今野翔太 1-3 和野圭祐 1-4 佐々木航平 |
| 英語部 | 宮城スキット甲子園2007決勝大会出場 第54回宮城県高等学校英作文コンクール出場 北陵祭・後夜祭で、スキット3作上演 | | |

| 不 明 計 報 | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|----------------|---------------|---------------------------|------------------|---------------|----------------------------|---------------|--------------|---------------|----------------|--------------|----------|-----------|------|
| 10 16 | 10 2 | 6 11 | 3 千葉 | 1 勝又 | 平成 17年 | 佐々木 | 高橋 | 室田 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | | | |
| 木村 | 渋谷 | 栗林 | 山崎 | 千葉 | 神山 | 我妻 | 小野 | 理一殿 | 今岡 | 睦磨殿 | 中31回 | | | |
| 二瓶 | 賢次 | 春夫 | 修殿 | 治典殿 | 学殿 | 松本 | 高橋 | 殿 | 三宅 | 武殿 | 中46回 | | | |
| 郎殿 | 殿 | 殿 | 殿 | 殿 | 殿 | 清二殿 | 隆雄殿 | 中29回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | | | |
| 高14 | 回 | 高6 | 回 | 高14 | 回 | 佐々木 | 義孝殿 | 中27回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | | | |
| 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 修一殿 | 修一殿 | 中26回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | | | |
| 平成 13年 | 平成 12年 | 平成 11年 | 平成 10年 | 平成 9年 | 平成 8年 | 佐々木 | 昭彦殿 | 中21回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | | | |
| 13 | 23 | 17 | 10 | 1 | 1 | 佐々木 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 毛利 | 李 | 吉田 | 桜井 | 松本 | 山田 | 平野 | 曾根 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 武文 | 殿 | 慶鎌 | 多喜男 | 祐吉 | 嘉隆 | 正義 | 殿 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 中 | 高44 | 回 | 高21 | 回 | 中14 | 回 | 中43 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 高 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 3 13 | 2 23 | 2 17 | 2 10 | 2 1 | 1 16 | 平成 19年 | 12 13 | 12 11 | 12 7 | 12 1 | 11 28 | 11 20 | 平成 18年 | |
| 毛利 | 李 | 吉田 | 桜井 | 松本 | 山田 | 平野 | 曾根 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 武文 | 殿 | 慶鎌 | 多喜男 | 祐吉 | 嘉隆 | 正義 | 殿 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 中 | 高44 | 回 | 高21 | 回 | 中14 | 回 | 中43 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 高 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 38 | 3 | 11 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 11 | 11 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 12 | 12 | 20 | 16 | 15 | 14 | 8 | 7 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 桑島 | 井崎 | 山下 | 渋谷 | 紺野 | 菅原 | 工藤 | 最上 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 望殿 | 英男 | 裕修 | 宏樹 | 廣一 | 宗夫 | 公喜 | 誠貴 | 正人 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 |
| 中 | 高38 | 回 | 高6 | 回 | 高4 | 回 | 高11 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| 高 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | 西田 | 明儀殿 | 高14回 | |
| の後任として勤務している | ところで四月から林敏子さん | の後を実感しております。 | 二高同窓会員相互の結びつきの強さあらためて認識する | とともに母校にたいする熱い | 思いを実感しております。 | 各支部で行われる総会・懇親会開催ご連絡を受けるたびに | 立つ第一回評議員会、総会を | 受けた第二回評議員会での | 活発な討論、月毎の同窓会理 | 事会で夜遅くまでの審議など、 | 今年度総会およびそれに先 | | | |
| たします。 | 佐々木恵理さんの勤務日が月・ | 水・金の三日間になりました | で四月以来過ごしてまいりました。 | すべてが初の体験で無我夢中 | して。またこの間、県内外の | 立つ第一回評議員会、総会を | 立つ第一回評議員会、総会を | 受けた第二回評議員会での | 活発な討論、月毎の同窓会理 | 事会で夜遅くまでの審議など、 | 今年度総会およびそれに先 | | | |
| (高22回 佐々木文朗) | 佐々木恵理さん | たしました。 | たしました。 | で四月以来過ごしてまいりました。 | して。またこの間、県内外の | 立つ第一回評議員会、総会を | 立つ第一回評議員会、総会を | 受けた第二回評議員会での | 活発な討論、月毎の同窓会理 | 事会で夜遅くまでの審議など、 | 今年度総会およびそれに先 | | | |



佐々木恵理さん

事務局だより

編集後記

平年よりも早い初雪が、未だ散り終えていない紅葉の上に積もり、今朝の正門周辺は見事な風景になりました。
都会の中心にこのような佇まいをもった学校は珍しく、この環境を整備された方々に敬服するばかりです。

今号にも皆様から多くの情報をお寄せいただき有難うございました。今後とも短信、報告、同期会のお知らせなど、どしどしお寄せ下さい。

(高43回 黒澤 幸治)

同窓会名簿編集事業と紛らわしい問い合わせ

◆同窓会御各位への注意喚起◆

今年平成19年7月頃から同窓会名簿編集事業と紛らわしい問合せが往復葉書で多数の同窓生宛に届いています。当同窓会の会員名簿編集事業とは全く関係有りませんので、御注意願います。

(同窓会理事会)